全カリ News Letter No.9
1998.9.21
立教大学全学共通
カリキュラム運営センター

全学共通カリキュラム実施２年目を迎えて

全学共通カリキュラム運営センター部長　所　一　彦

全学共通カリキュラムがスタートして２年目を迎えました。本学の多くの方々の叡知を集め創られた新しいカリキュラムを何とか無事にスタートさせることができました。本年度は武蔵野新座キャンパスに観光学部とコミュニティ福祉学部が開設され、両学部向けの全カリ科目もスタートしました。関係者の皆さんのお陰と感謝しています。

全カリ２年目を迎え、具体的な課題が浮かび上がってきています。３年目に向け改善できるところは改善し、時間が必要なものについては問題点の整理と改善に向けたスケジュール作りに取り組んでいます。

1999年度カリキュラムもほぼ概要が決定しました。言語教育科目では、新学部用に２年次生以降を対象とした英語強化科目のインテンシブ・コースを、また池袋学部用にコンピュータを利用して外国語学習および外国語の情報処理を学習する言語情報処理教育などを新たに開講する予定です。総合教育科目では、本年度から新たに開講した人権関連科目を引続き開講します。また総合Ｂでは、開講コマ数に変更はありませんが６つの新規科目を開講する予定です。

総合教育科目は2000年度を目途にカリキュラム整備の検討を進めています。総合Ａについてはカテゴリー間のコマ数の調整、情報については各学部からお預かりした情報科学の取り扱い、スポーツ実習については予想される武蔵野新座キャンパスからの引き上げに伴う対応など、具体案を作成していくことになります。情報教育、スポーツ実習については各研究室で検討を進めていただいており、秋には中間報告が出される予定です。各学部においてもどのような全カリ科目を希望するか検討していただきたいと思います。

カリキュラムの整備と共に重要なことが授業の改善です。授業が充実しなければカリキュラムも生きてきません。各言語教育研究室では毎学期担当者連絡会を開催し、授業内容の打ち合わせや、進度の確認、欠席状況の把握、試験の打ち合わせなどを行っています。特に、英語教育研究室では４回目となる教員研修会を年度初めに開催しました。実際の授業を題材にした多くの研究発表が行われました。総合教育研究室でも少しずつ担当者連絡会が開催されるようになり、これからが楽しみです。

秋には「大学で何を教えるか ── 全カリと専門 ──」をテーマにシンポジウムを予定しています。全カリがスタートして２年目、総合のカリキュラム整備の検討を進めている今、教職員、学生のみなさんと一緒にこれからの大学教育のあり方について改めて考えてみたいと思い企画しました。奮ってご参加ください。その成果を受けて『大学教育研究フォーラム第４号』で「全カリと専門」を特集する予定です。

1998年度全カリ公開シンポジウム

テーマ　「大学で何を教えるか ── 全カリと専門 ── 」

日　程　　１９９８年１１月１８日（水）　１７：３０～１９：３０
場　所　　７号館　７１０２教室
講　師　　寺﨑 昌男氏（桜美林大学大学院教授・前本学全カリ運営センター部長）
　　西島 建男氏（ジャーナリスト・前朝日新聞編集委員）
　　亀川 雅人氏（本学経済学部教授）
　　栗原　彬氏（本学法学部教授）

●―シリーズ〝対談〟

「福祉を講義する― 全カリと専門で」

新藤宗幸氏
（法学部教授）

岡田　徹氏
（コミュニティ福祉学部教授）

岡田　この4月からコミュニティ福祉学部に着任しまして、全カリでは「国際化と社会福祉」等の授業を担当しています。

学部・専門を異にする、しかも1年生から4年生までの学生たちがいろんな問題意識を持って一つの授業を聴きに来ています。そういう学生たちに対して、授業のねらいとしては社会福祉の制度・政策とか臨床の細かな技術・方法論とかに限定しないで、自分の専門研究や人生に照らして私の授業を聞いてください、自分の専門や実存ときり結ぶ形で聞いてください、というふうに注文を付けています。感想としては大変手応えがあっておもしろいなという感じがしています。

新藤　一般教育課程を全カリに変える最初の委員会に法学部から出たわけです。その時、「全学共通カリキュラム」という言葉を暫定的に作ったのが、そのまま大学の公的な言葉になりました。それは、従来のような専門の準備段階という意味の科目ではなくて、広く視野を養うような科目として考えようということはだいたい共通認識だったんですね。そういうなかで、福祉関係の科目が置かれるというのは非常に結構なことですね。私は法学部のほうで行政学を担当してますが、行政学で福祉行政を語るときには、制度の問題をきちんと説明しなければなりませんけど、福祉を勉強をしていくとすれば、個別社会福祉論の領域だけで福祉を考えたら間違いである、やはり、政府あるいは政治の構造の中にいかに位置づけるかということを機軸にしないと細かな福祉論の中に入っていってしまう、ということは強調します。

岡田　私も同じように、人間と社会的世界の出来事として捉えてもらうようにしています。狭く制度論として社会福祉を捉えるのではなく、自分も含めた人間の問題、社会的世界の問題、これはコミュニティからグローバリゼーションの視点まで、また領域的には政治、経済、社会、文化を含めた拡がりの中で社会福祉を学んでもらいたいと考えています。社会福祉をおそらくは二度とは学ばないだろう学生たちに的確に伝えていこうとすると、福祉はあなたの生きるという問題と地続きなんですよということを強調するんですね。福祉以外の専門の学問の中で訓練を受けている学生たちに、どのような波紋を投げるか、何を融発・喚起するかということをじっくり見てみたいなと思っています。

岡田　徹氏

新藤　福祉とか教育というのは誰でも一言はしゃべれるんですよ。ですから、問題なのは、福祉というものを見る目をどこに設定するかということが中心になるべきなんじゃないですかね。

岡田　コミュニケーション・カードを授業でとっているんですけど、それを見ますと、授業を受ける前の社会福祉観というものを知ることができるんですね。社会福祉というのは偽善ぽいとか、暗い、自分とは関係ないというような印象を持っていますね。

新藤　そういう偽善ぽいというのは僕らも感じますよ。今までの社会福祉の法とか理論の構成のところに一種の日本的パターナリズムから、ものすごく革新的だと自己規定している人も含めて、抜けきってないところがあると思うんです。もう一つ、政府の政策としても一種の施しなんだという側面が非常に強くありますから、一般的な受け手からいうと、一種の偽善ぽいんだという感覚を持ってる部分が残ることは事実なんじゃないですか。

岡田　そのことは決しておかしいとは思わないんです。少しショックだったんですけれど、カードの一枚に、自分の稼いだお金の中の税金が福祉の連中にいくと思うと腹立たしい。私はアメリカで働きたい、アメリカではそうじゃないから、と書いている学生がいるんですね。学生の率直な意見で非常におもしろいなと思います。この人がどういうふうに変化していくか興味があります。が、私はこうした意見に対して、人間の人生というのはリスクを背負っているわけで、いつ何どき社会福祉のサービスの受け手になるかわからない、近代産業社会という時代状況、社会状況が必然的に福祉国家を生み出さざるを得なかったという話をするん

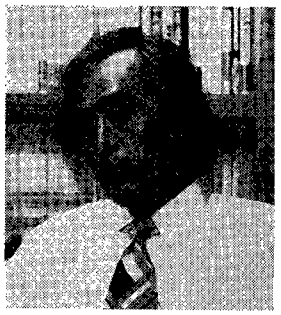
です。したがって私の考えはその学生の考えとは真っ向から対立するんですけれど、そのことをどう伝えるか、こちらの力量が試されます。

新藤　問題として言えば、そういう観念が、見方が間違いだと言えないところに今の問題があるんじゃないですか。そういう状況の中で、何が一番忘れられているかと言えば、市民と市民との連帯というか、共通主体というのは政府じゃないというような話が必要なんじゃないですかね。世界の経済構造は変わってきているわけで、時代状況の認識からいえば、福祉国家というものを存立させた条件が消え去っているということですよ。ですからその先にどういう福祉システムを構想すべきなのかということが人間として問われているんだろうと思うんですね。一つは私的営為の中に任してしまえという話と、もうひとつはいわゆるガバメントがやってきた部分を私人がパブリックな部分としていかに再構成できるかという、2つの選択肢を突きつけられているんだと思う。私がその科目を担当するとすれば、そういう話をしますね。

岡田　おそらくそうだと思うんです。どんな時代状況でも一番最後に割りを食う人たちが必ずいるわけです。福祉はそうしたいきづらさを生きる人たちの当事者運動とその周りの協力者、それから更に広く市民の連帯に存立・生成の基盤を置いている。これは福祉に限ったことではありませんが、今の日本で一番欠けているのは、政治（国家・行政）、経済（市場、企業）、市民（生活文化）というセクターおよびそのバランスで言えば、市民による生活文化レベルの連帯ないし共生関係です。これをどう構築していくか、そのあたりのことを全カリの学生には伝えてみたいと考えています。

新藤　全カリも固まっているわけではないですから、いろんなアプローチがそれぞれあってよろしいと思うんですよ。全カリというのは別にかつての教養でもないし、あるいは専門の基礎でもないから、まさにそれ自体独自の体系をそれぞれが持てばいいんじゃないですか。

岡田　前全カリ部長の寺﨑先生の言葉で表現するとすれば、全カリは専門性に立った教養人の養成プログラムということでしょうか。新藤先生はどこかで、行政改革は行政官僚の意識の改革が必要だ、教養あるテクノクラートの養成が不可欠であると書いてらした。寺﨑さんの表現は先生の表現をひっくり返したものですが。4年制の大学は教養人の養成だと。しかも観念論を振り回すような教養ではなくて、新しい教養だとおっしゃった。先生のおっしゃる教養あるテクノクラートというときの教養の中身はなんですか。


新藤　宗幸氏

新藤　幅広くものごとの文脈が読めるということですよ。たとえば、今はコミュニティ福祉学部のカリキュラム構成の議論ではないですけれども、カリキュラムを見ていて一番不満に思うのは、行政学も地方自治論も地方財政論もないところでどうやって福祉の専門家を育てるんだといいたいんですよ。今までの社会福祉学者の観念から脱却してないなと思うわけですよ。

岡田　帰ったらちゃんと伝えておきます（笑）。私としては先程のセクターバランスの話しのように、日本社会が成熟社会に向かうためにはどうしても避けられない自立した意識を持った市民を育てることが福祉から発信する基本的メッセージだと考えています。

新藤　全カリは学部間の相互乗り入れをきちんとしたほうがいいと思っています。例えば行政学を勉強している学生で言えば、どこの学部で開講しているか分からないけど「人類学」をきちんと勉強してきてもらうとか。そういう立体的なほうが重要なんで、全カリという場を今後とも設定していくとすれば、そういう相互の乗り入れの場として設定していくのが一番いいんじゃないかと思っていますけどね。

岡田　確かに異質な学問に触れ合うときに起こすフリクション、摩擦や軋みの中から先生が今おっしゃった「教養」、すなわち幅広くものごとの文脈が読める力が身についていくんだろうなと思いますね。ただ学生を見てますと、結構選択科目でいろいろとっていると思うんですけども、それが併存したまま総合化されないで、これはこれ、あれはあれという形で別々の引き出しの中に収まって入っているような気がするんですね。さまざまな知をつないでいく、切り結んでいく、そういう触媒のような仕事というのがどっかで必要なんだろうな、と思うんです。

新藤　それを全カリの一つの中心にすればいいんじゃないですか。

岡田　今日は有意義な対話ができ、ありがとうございました。

学生の声

全カリ授業にモノ申す

今号から、全カリの授業に対する学生の声を載せていくことになりました。

学生の声は、全カリの科目担当者にご協力いただき簡単なアンケートで拾っていくことにしました。質問は「この授業および他の全カリの授業について感想と注文を下の欄に書いてください。」というものです。

第１回目は、英語と総合Ｂの科目担当者のお二人にご協力いただきました。その一部をご紹介します。

★英語の授業にて★

＜英語インテシブ・クラス＞

＊このインテンシブコースは非常にレベルが高く、その分やりがいがある。この様に“英語で歴史や国際政治を勉強できる授業”をもっと多様に、そして増やして欲しい。このインテンシブコースは少人数制であるのは良い点だが、その分とれない人が多いのが問題だ。

＊毎回すごくいい刺激になっている。英語をコミュニケーションの手段として使い、日米関係など様々な視点から学ぶのは初めての経験だし、得るものが大きい。やっている内容も、教科書（歴史）の裏にあるような、学校ではやらなかったようなことなので興味深いし、考えさせられることも多い。とにかくこのクラスをとれて良かったと思う。

＜新学部１年次英語必修クラス＞

＊語学の授業は高校までの授業とかなりの差があり、そのギャップをカバーするのが大変である。情報科学の授業は、専門用語をたくさん並べた講義をするので理解できない。コンピュータは、講義の内容を理解するだけでは何の意味もなく、どれくらいコンピュータを使ったかが問題なので、もっとコンピュータに触らせて欲しい。講義の必要はないと思う。

＊英語多すぎです。初習言語の再履修がないのはひどい。新座の全カリは少な過ぎです。

＊中高では、文法を中心とした授業で単語・熟語文の型などを中心とした勉強しかしていなかったと思います。でも、COCコースで外人の先生に教えていただいて、文法よりも自分の意見を伝えることが大切であるということがよく分かりました。とても興味深い授業です。

★総合Ｂの授業にて★

＜池袋キャンパス開講＞

＊私語が目立つ人が多く、授業になってない時もあります。履修要項に「やる気のない人は来るな」くらい書いてもいいのではないでしょうか。

＊「人権・生命・環境」は普段少し気になっていた社会問題を取り上げているので、とても興味があります。でも、やる気のある学生だけ参加してくれればもっとよかったです。

＊他学部の教授に教えてもらったり、理系の学生と一緒に授業をとったりできるのは興味深かった。

＊全カリと学部専門科目との一番の違いは、後者が入学の段階からその内容に興味を持っているものであるのに対し、前者は異なるという点だと思う。よって、全カリの担当者は、その内容自体にもっと興味を引っ張るアプローチを考えるべきだと思う。

＊ビデオとか実物のものをもっと見たかった。話、討論だけでは本当の姿は見えないのではないか。

この企画はしばらく続ける予定です。全カリ科目を担当している先生にアンケートご協力のお願いに行きますので、その節はよろしくご協力ください。

Information Board

初習言語希望充足率 99.9％達成!!

全カリ言語改革の目玉の一つに、１年次生の初習言語の希望を100％充たすことがあります。毎年過去２～３年の希望率をもとに翌年度の各言語の履修受入可能人数を設定するのですが、本年度はほぼ100％を達成することができました。

102名が英語８単位履修特別免除に

本年度より、本人が希望し、かつプレイスメントテストの成績が優秀な学生は英語必修８単位を特別に履修免除する制度がスタートしました。初年度は102名の学生が該当者となりました。

総合教育科目の各種統計資料のご利用を

総合は2000年度に向けカリキュラムの整備に取り組んでいますが、1997年度および1998年度前期の統計資料が整いましたので、カリキュラム検討等に必要な際には全カリ事務室まで。

英語嘱託講師公募中

1999年４月着任で英語、ドイツ語、フランス語、中国語で嘱託講師人事を進めることになりました。
英語では広く優秀な人材を公募しています。募集要領が必要な場合は全カリ事務室まで。